

大会規定

1. この規定は中学生の部、中学生ジュニアの部に適用する。
2. 選手登録は、1 チーム 11 名以上 25 名以内とする。
3. 登録選手および登録されたチーム責任者(代表またはそれに代わる責任ある者でチーム責任者証を携帯している者)、監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることができる。ただし、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
4. 組合せの若番号が 1 塁側ベンチ、後番号が 3 塁側ベンチに入る。
5. 監督(背番号 60)、コーチ(背番号 50)は選手と同じユニフォームを着用すること。また、チーム責任者は連盟規定の衣服を着用すること。
6. 試合開始予定時間の 1 時間前に試合場に到着し、到着後直ちにメンバー表を 5 部本部に提出して、所定の審査を受けられるよう準備し待機すること。
7. メンバー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
8. 試合開始までにチームがグラウンドに現れないときには、球審は没収試合を宣言することができる。
9. 各試合は 7 回戦で行い、4 回終了をもって正試合とする。試合成立後は開始から 2 時間を超えた場合、新しいイニングには入らない。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。
試合成立前に、上記理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
10. 4 回終了時 10 点差、5 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。
11. 7 回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長 8 回(決勝戦は 10 回)あるいは、試合開始から 2 時間(決勝戦は 2 時間 20 分)を超えた次のイニング(どちらか早い方)からは、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク実施規則」参照)
12. 試合での登板は以下のとおり制限する。
1 日最大 80 球とし、連続する 2 日間で 120 球以内とする。
連続する 2 日間で 80 球を超えた場合は、3 日目は投球を禁止する。また、3 連投(連続する 3 日間)する場合は、1 日の投球数を 40 球以内とし、4 連投(連続する 4 日間)は禁止する。
尚、詳細は「中学生投手の投球制限ガイドライン(新) 2022 版」を適用する。
注) 本大会に出場するにあたり、試合前日に他の大会での試合及び練習試合等があった場合、投球回数制限に違反がないよう選手起用を行ってください。
後に違反が確認できた場合、ペナルティーを科すこともありますのでご注意ください。
13. 監督またはコーチの指示、伝達は 1 試合で攻撃 2 回と守備 2 回の計 4 回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで 1 回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない) 内野手が 2 人以上投手のところに行ったときも 1 回に数える。また、指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30 秒以内」とする。
守備側の投手に対する指示、伝達が 3 回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登録することはできない。
14. 1 イニングで同一の投手に対して指示、伝達が 2 回目となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登録することができる。

15. 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。
16. 2 塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
17. ボール回しをする時は 1 回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
18. 投手は走者をアウトにする意思がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
19. 各チームは、ヘルメットを 7 個以上、捕手の規定防具 2 組を備えること。
20. ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。
21. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
22. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
23. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
24. 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
25. 試合前のシートノックは原則として 5 分間行なうが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行なうか否かは球場責任者が決定するものとする。
26. 球場責任者の指示に従うこと。

【タイプレーク実施規則】

(1) 特別規則

- (イ) 延長 8 回あるいは試合開始から 2 時間を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は 10 回あるいは 2 時間 20 分を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行なうものとする。
- (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- (ニ) この場合の代打および代走は認められる。

(2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

- 規定により出塁した 3 走者は、投手の自責点とはしない。
- 完全試合は認めない。
- 無安打、無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

- 規定により出塁した 3 走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
- 規定により出塁した 3 走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。